

第5回会議での主なご意見（保育の見える化について）

※事：事業者、保護：保護者

発言者 ※		ご意見
現在利用している人への見える化		
1	保護	現在利用している人への見える化で、ITを活用した、こどもの様子の公開について、ユニファという会社で、ロボットが撮ったこどもの様子の写真や昼寝の時の体勢、一日の体温の推移などを保護者がスマートフォンなどで見ることができるサービスを行っており、全国的に取り入れている保育園が増えているという記事を読んだ。そのような方向に進んでくれると良い。ITの活用について、どの程度のレベルを求めるか、指針を示したほうがよい。
運営状況の評価の見える化		
2	事	<p>第三者評価の結果を有効に使うと良い。第三者評価は、利用者の意見が反映され、事業者についても第三者が入って公平な目で評価される。時間をかけて調査され、事業者に対して、保護者からの意見、改善点や良いところを口頭で伝えられる。東京都が主体で行っており、基本的に3年に一度は受審することを勧めている。</p> <p>受審するか否かは事業者の自由だが、利用者と保育者が理解し合うためのベースをつくらうということで、基本的には受審する。結果は「福ナビ」のホームページで公開されている。</p> <p>見える化は、保護者が安心して利用できることがねらいだと事務局に確認した。保護者が一番安心できるのは、保育の質だと思う。保育士の人件費率や離職率は数字で見えるので分かりやすいが、これから利用する人が見たいこととして、利用している人と事業者の生の声が上がっているのは第三者評価かもしれない。</p> <p>保育園では、結果を保護者に返すなど見えるようにするが、これから利用する人は福ナビからしか見ることができず、あまり見ていないかもしれない。現在、区ホームページから園ホームページへリンクできるようになっているが、第三者評価の結果をリンクすれば、園の状況が見やすくなると思う。</p>
3	事	第三者評価を受審している家庭的保育者はいないと思う。施設型保育事業は受審していると思うが、受審結果を公開することはとても良いことだと思う。

事業者間交流

4	事	<p>施設間交流を積極的に行うことで、保育の内容や状況などの問題点を解決できると思う。</p> <p>認証保育所は横のつながりが少なく、どのようにすれば良い保育園になるか、良い保育ができるかを暗中模索して行ってきた。保育をする人が集まり、同じ問題を共有して良い方向に方向づけることは、あらゆる面での見える化につながる。同業者同士の横のつながりを区にお願いしたい。</p> <p>第三者評価の結果を公表し、意見や問題点を共有して問題解決に役立てると良い。</p>
5	保護	<p>施設間交流は、園長会などの形式になりがちだと思うが、恐らく事業者にとって、日々の職員が減ることのハードルは高い。企業は、出向や派遣などお互いを知り、良いところを交換する方法がメインだと思う。そのような形であればマイナス1にならない。うまくいかないこともあると思うが、マイナス0.5くらいでまわせればお互いに良い。そのような交流の仕方も検討してほしい。</p>
6	事	<p>私立保育園の園長会は実施されており、私立保育園89園（平成30年4月1日現在）に対して、必要な知識や情報を入れてもらっているが、事例の共有など保育の質を高めるために討議するまでには至っていない。</p> <p>練馬区内の私立保育園のうち40園は、私立保育園協会に加盟しており、深い情報交換や各園を見に行き勉強し合っている。一方で、認証保育所、保育ママ、公立保育園との交流はなく、非常に疑問である。同じ練馬区のこどもたちなので、どこでお預かりしても一緒であれば、安心して預けられると思う。</p> <p>公立保育園と私立保育園は同じような運営状況だが、区の中で分断されており、交流に結びついていない部分がある。</p>
7	事	<p>保育の質を上げるためには、保育者がどれだけ保育を勉強するかが一番大事である。</p> <p>連携園を組む形になってから、月に二回保育園にお邪魔する機会がある。保育ママの場合は、こどもと一緒に保育園に行き、園庭開放に参加させてもらい、給食を食べて帰る。たった二回だが、園の先生の動きを見てとても勉強になる。現場の人間が他の保育現場を見て体験することは大事だと思う。ただし、園によって受け入れ体制が違うので、区で体制を整備されると良い。</p>
<p>保育事業者への区の巡回</p>		
8	事	<p>保育事業者への区の巡回について、保育内容の確認を目的に巡回指導は年に二、三回ある。毎年、年度末の事務説明会の際に、巡回についての報告があるが、具体的に良いところをフィードバックする巡回であれば、保育の質が上がってくると思う。</p>

その他（資料のつくりなど）

9	保護	見える化する内容や項目の枠にある内容は、これから利用する人、利用している人への見える化の枠にも入る内容だと思う。整理の仕方が悩ましく、意見が出にくいのだと思う。
10	保護	これから利用する人への項目がとて少ないように見えるが、前回の議論では、見える化の手法の枠にある内容は、主に、これから利用する人への見える化として議論しており、資料左側の内容は、これから利用する人への見える化として話し合っている。グループ討議で出た内容は、資料のどこかには記載されているので不足はない。
11	保護	<p>前回会議では、質の高さが分かる数字や文字の見える化も大事だが、温かみ分かる見える化を保護者は求めているので、ビジュアル化したほうが良いと打ち出した。</p> <p>冊子の構成についても認可保育園、認証保育所、小規模保育事業、保育ママの順で良いものだと保護者は捉えがちなので、構成で思い込ませるのをやめるために脱ランク化を掲げた。資料2-2では、その方向性が全く消えてしまっている印象である。</p>

副会長からのご意見（要約）

評価は優劣をつけるイメージがあるが、良さを出し、課題に対してはどのように協力して質の向上につなげていけるかが重要なポイントであると大前提に考えたい。保育の評価について、温かみなど数値ではないとの意見も出た。数値は分かりやすいため、評価しやすい。その部分もちろん重要でありつつも、保育は、数値化できないため見えにくく、その分かりづらい部分が、実はとても重要だと保護者は感じている。保育現場でも重要に思っているだろう。乳幼児の教育が世界的に注目され、OECDのレポートにもあるように非認知的能力が重要とされている。こどもが頑張る力、目標に向かってやり遂げようとする、感情をコントロールする、我慢するなどという数値に表れにくい育ちの部分を育てることが、将来に向けて重要であると研究の成果でも表れている。日本においても、見えない部分の育ちを重要視し、心情・意欲・態度を大事にした保育を行ってきた。そのような見えにくい重要な部分をどのように見える化するかが、大きな課題である。保護者に伝わりやすい解説をつけた上で、専門的な部分を評価に位置づけ、見える化することで温かさが出てくるだろう。例えば、子どもが遊びにどれだけ没頭しているかの没頭度や夢中度などが評価の基準にあるが、数値化できない。そのような部分をどのようにすれば見える化できるかを考える姿勢が重要である。

第三者評価は、専門の評価委員が数日間かけて細かく評価している。数値化できる部分を含め評価するが、事業者や自治体のホームページなどにリンクが貼られていないなど目に触れにくく、探さないと出てこないため見えにくい。また、細かすぎることで、保護者は分かりにくさを感じると思うので、ビジュアル化して分かりやすく見えるといい。評価の受審にはかなりの時間を割くので、事業者の負担になることが懸念される。今、行われている評価を活用しながら、ビジュアル的に見やすくすることが課題である。見えない部分の評価を大切に、見える化することが大事である。